

## 授業の概要

矯正歯科技工学を行なうにあたっては、不正咬合そのものの知識とともに、矯正装置が歯や顎骨をどのように移動させるかを理解し、学習した理論を基本として、矯正装置の製作に必要な知識を修得する。

- 教科書：最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）
- 授業時間：金曜日 18:00～18:45
- オフィスアワー：納村 泰弘 ([namura.yasuhiro@nihon-u.ac.jp](mailto:namura.yasuhiro@nihon-u.ac.jp)) 金曜日 17:00～18:00
- 成績評価：前期：定期試験（50%）  
後期：定期試験（50%）で評価する。
- 注意事項：教科書を必ず持参すること。
- 授業方法：講義形式，スライドならびにプリントを使用して講義を行う。授業内に平常試験を行うことがある。
- 準備学習：事前に教科書で講義項目を確認しておくこと。
- 準備学習時間：講義時間と同等の時間の予習と復習を各自で行うこと。
- 実務経験；納村 泰弘：現在，在職している日本大学歯学部附属歯科病院の経験を基に、歯科医師の立場として口腔内で機能させる歯科矯正装置を製作利用し治療する実際の観点から，本教科での内容を講義していく。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回4月12日 納村 泰弘	1. 矯正歯科技工学概論	・平成30年度歯科技工士国家試験問題に解答し，内容の理解度を確認できる。
第2回4月19日 納村 泰弘	2. 矯正治療の目的 1) 正常咬合 (教) pp. 3-6	・不正咬合による障害を理解し，矯正治療の必要性を説明できる。
第3回4月26日 納村 泰弘	2. 矯正治療の目的 2) 不正咬合 (教) pp. 6-9	・個々の歯の位置異常，歯列弓形態の不正，上下歯列弓関係の不正を説明できる。
第4回5月10日 納村 泰弘	2. 矯正治療の目的 3) 不正咬合の分類 (教) pp. 9-13	・アングルの分類法を説明できる。
第5回5月17日 納村 泰弘	3. 矯正歯科治療の進め方 (教) pp. 14-25	・矯正治療によって歯や顎骨を移動する前に行われる症例分析と診断を説明できる。 ・矯正治療の一連の流れを説明できる。
第6回5月24日	4. 矯正用口腔模型	・平行模型と顎態模型の特徴と製作法を説

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
納村 泰弘	(教) pp. 39-45	明できる。
第7回5月31日 納村 泰弘	5. セットアップモデル (教) pp. 39-45	・ セットアップモデルの使用目的と製作法を説明できる。
第8回6月7日 納村 泰弘	第2回～第7回まとめ	・ 第2回～7回の内容を総括し、重要事項と新しい項目の再確認を行う。
第9回6月14日 納村 泰弘	6. 矯正用器具 (教) pp. 25-28 7. ワイヤの屈曲 (教) pp. 29-33	・ 矯正用器具は多種あるので、その名称と何を行なうために使用するかを述べることができる。 ・ ワイヤの屈曲に関する基本事項を説明できる。
第10回6月21日 納村 泰弘	8. 自在鑑付け (教) pp. 33-36 9. 矯正用レジンの使用法 (教) pp. 37-38	・ 自在鑑付けの一般的原則および手技の注意事項を説明できる。 ・ 矯正用常温重合レジンの成形方法を列挙できる。
第11回6月28日 納村 泰弘	10. 矯正装置の必要条件と分類 (教) pp. 46-48	・ 矯正装置の基本的な条件、所要条件、分類方法を説明できる。
第12回7月5日 納村 泰弘	11. 舌側弧線装置 (教) pp. 50-56	・ 舌側弧線装置の構造、作用機序、適応症を述べることができる。
第13回7月12日 納村 泰弘	12. 顎間固定法 (教) pp. 47 13. マルチブラケット装置 (教) pp. 72-75	・ 顎間固定法の定義とその作用を説明できる。 ・ マルチブラケット装置の特徴、構造を説明できる。
第14回7月19日 納村 泰弘	14. アクチバトール (教) pp. 56 15. バイオネーター (教) pp. 57-59 16. フレンケルの装置 (教) pp. 75	・ アクチバトール、バイオネーター、フレンケルの装置の構造、作用機序、適応症を説明できる。
第15回7月26日 納村 泰弘	17. 前期まとめ	・ 前期の内容を総括し、重要事項と新しい項目の再確認ができる。